

謹賀新年

日頃は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。本年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。

平成31年 初春

0120-090557

ダスキン愛豊

みよし市助生町雪和265-1

このクーポンで1,000円OFF

整体+カイロ&メンタルリフレッシュ 鈴木健康トータルケア

身体の不調には理由があります。??疑問??に??からた??こころセラピー??でお答えします。治療方法をご提案します。

からだとこころのバランスを取り戻しませんか?

◎新年は5日(土)から診療します。

【施術時間】AM10:00~PM7:00 ※最終受付午後5時

【施術費】60分 5,000円 80分 6,000円

【定休日】毎週木曜日

完全予約制 090-5850-8201

黒笹町寺山908

黒笹駅 黒笹公民館 黒笹交差点から東方向約100m

自転車・ファミリーバイク 販売修理 駐車場完備

三好丘中・北中通学車

予約受付中

1月5日(土)から営業

通学車の大定番 ベルトドライブ

キトウサイクル

出張修理OK! TEL 36-0409

■営業時間 AM8:00~PM8:00

■定休日 毎週火曜日、第2月曜日

さんさんバス福谷バス停前

Hair Salon HAYASHI

Since 1963

メンズカット一般 ヘアサロンはやし

平成31年

謹んで新年のお喜びを申し上げます

5日(土)から平常通り営業いたします。

卒園、卒業の準備もお早めに! 大切なイベントに備えて、"予定"をしっかりと組み込んで下さいね。

営業時間 AM8:00~PM7:30 TEL 36-1305

定休日 毎週火曜日、第2・第3月曜日

※1月は、14~15日と21~22日が連休です。

商工会青年部主張 発表全国大会で 最優秀賞

2018年11月21日 広島県広島グリーンアリーナ

そして発表のテーマは「青年部活動を通じて買いた志」。



「背広の内ポケットにも忍ばせなかつた。②大きい声を出せ! ③仕事を通じて知り合った劇団の人に『姿勢を良くしろ! 背筋を伸ばせ!』④強弱、メリハリを付ける! ⑤(自分の発表内容を)映像化して、それを思い浮かべながらしゃべろ!」。

父の練習を聞いていた日

「『最優秀』(中部ブロックの中)と聞いた瞬間、興奮して観客席で息子を握りしめ、涙が溢れました。もう、本当に感動して涙が出てきました」と奥様の渡邊純子さん。

全国6ブロックから7人が出場した全国大会。『出る以上は優勝だ』と商工会青年部メンバーから檄を飛ばされた渡邊さん。人前でしゃべるのが苦手だという渡邊さんは①原稿を見るな!

『きもののおかげで、色々な方々とお会いできて、勉強させていただきました。私たちの活動は、学びながら教え、教えながら学ぶこと。学び続けながら、次の世代へきもの文化を伝えたり、伝えられる人材を育てたりするのも役目なんです』。

一般財団法人・民族衣裳文化普及協会に30年前に(1988年)加盟。ひばりヶ丘2丁目の

夏太ひなた君(北中2年):『母や祖母は発表結果を聞いて泣いていました。が、ぼくは父の発表練習と一緒に風呂に入ったりして、一番近くで聞いていたの。『ああ、普段通り出来たのかな』と、結構冷静に分析してました。声の様子もいつもと違って勢いがありました。だからね』。

渡邊さんは『7月の愛知大会のころはまだ恥ずかしかった。青年部の仲間におだてられ、のせられていたように内心感じていたのですが、8月の中部地区大会では、そんな気持ちも無くなり

「『確信』に変わりました。(全国大会に)行けると思いましたが、しかし、そんな確信もやはり全国大会での緊張は半端なく、会場内、3600人という聴衆を前に発表を始めて『2、3分後ぐらいから、あまりよく覚えていないんです。机の色(茶色)だとか、喉が渇いたとかは覚えていたんですが、会場の様子は全く覚えていなかったですね』。

▼お地蔵さまのおかげ:通称「新屋辻(助生町

45周年記念事業のひとつ、「医学系留學生交流会」で十二単(じふにさん)の着物を披露。着せられ役のモデルを「お方様(おかたさま)」、着せる役の人を「衣紋者(えもんじき)」と呼び、二人で着付けるその姿が、その役目を小宮山さんが果たしました。

小宮山さんは「今回の十二単は『はじめみじ』と呼ばれる特別な時にしか披露しないもので、重さにして17kgほどになります。民族衣裳はこの国にでもあるものではないです。日本の衣裳は平安時代から1000年以上続く伝統があり、外国の方には日本人が思っている以上に、きものに對してあこがれをお持ちです。纏(まと)う、藝術、絵になる素晴らしいものなんです」。

自宅が教室を開いて15年。同協会の国際文化交流事業にも参加。2014年のアメリカボストン、2015年ラトビア、2016年イタリア、そして2018年には、11月22日から26日までベトナム・ハノイの在ベトナム日本大使館を訪問。同協会のメンバー13人が参加。大使館で開催された日越友好外交関係樹立

「母や祖母は発表結果を聞いて泣いていました。が、ぼくは父の発表練習と一緒に風呂に入ったりして、一番近くで聞いていたの。『ああ、普段通り出来たのかな』と、結構冷静に分析してました。声の様子もいつもと違って勢いがありました。だからね』。

渡邊さんは『7月の愛知大会のころはまだ恥ずかしかった。青年部の仲間におだてられ、のせられていたように内心感じていたのですが、8月の中部地区大会では、そんな気持ちも無くなり

母の影響:小宮山さんは、『祖母が七五三の着物を仕立ててくれた記憶がはっきりと残っています。結婚式のときには母が着物を揃えてくれましたが、自分で着られなくて、美容院に行きました(笑)。それは『もったいないなあ』と感じて学び始めたのがきっかけです』。

母の影響:小宮山さんは、『祖母が七五三の着物を仕立ててくれた記憶がはっきりと残っています。結婚式のときには母が着物を揃えてくれましたが、自分で着られなくて、美容院に行きました(笑)。それは『もったいないなあ』と感じて学び始めたのがきっかけです』。

「『確信』に変わりました。(全国大会に)行けると思いましたが、しかし、そんな確信もやはり全国大会での緊張は半端なく、会場内、3600人という聴衆を前に発表を始めて『2、3分後ぐらいから、あまりよく覚えていないんです。机の色(茶色)だとか、喉が渇いたとかは覚えていたんですが、会場の様子は全く覚えていなかったですね』。

▼お地蔵さまのおかげ:通称「新屋辻(助生町

45周年記念事業のひとつ、「医学系留學生交流会」で十二単(じふにさん)の着物を披露。着せられ役のモデルを「お方様(おかたさま)」、着せる役の人を「衣紋者(えもんじき)」と呼び、二人で着付けるその姿が、その役目を小宮山さんが果たしました。

小宮山さんは「今回の十二単は『はじめみじ』と呼ばれる特別な時にしか披露しないもので、重さにして17kgほどになります。民族衣裳はこの国にでもあるものではないです。日本の衣裳は平安時代から1000年以上続く伝統があり、外国の方には日本人が思っている以上に、きものに對してあこがれをお持ちです。纏(まと)う、藝術、絵になる素晴らしいものなんです」。



原。ひまわりネットワーク社のある交差点」の角つこにあった野ざらしになっていたお地蔵さんの「祠(ほこら)写真」を4年ほど前に、父の手助けを借りて建てたという渡邊さん。『それからというもの、

かけですが、そのときは着付けの講師になろうとは思っていませんでした。▼体験型の企画や音楽ショーなども開催:外国では浴衣体験や一枚の布(きもの)、一本の布(帯)がどのようなプロセスで身体と一体化するのか、見せることも工夫。さ高めてもらおうと、古典柄のきものだけでなく「モーツァルトの楽譜」を織り込んだ帯など、洋風のコーディネートにも楽しんでいきます(写真上)。

小宮山さんは「今でも先生(写真下)の魔法の手にあこがれていて、近づくたびに、2年後の東京オリンピック。協会の『きもの平和心おもてなし』が形となつて世界に発信できるの、不思議な縁が続いて(生まれて)今年(2018年)のこと、感謝の気持ちを込めて屋根飾りを新調したんです。お地蔵さんの前を通るたびに、手を合わせて『ここまで来られて有難うございました』とお礼を言いました」。

青年部の仲間や家族、応援してくれた周囲への感謝。そんな素直な思いが、これからの渡邊さんの人生を力にしてくれるのでしょ



「『確信』に変わりました。(全国大会に)行けると思いましたが、しかし、そんな確信もやはり全国大会での緊張は半端なく、会場内、3600人という聴衆を前に発表を始めて『2、3分後ぐらいから、あまりよく覚えていないんです。机の色(茶色)だとか、喉が渇いたとかは覚えていたんですが、会場の様子は全く覚えていなかったですね』。

▼お地蔵さまのおかげ:通称「新屋辻(助生町

母の影響:小宮山さんは、『祖母が七五三の着物を仕立ててくれた記憶がはっきりと残っています。結婚式のときには母が着物を揃えてくれましたが、自分で着られなくて、美容院に行きました(笑)。それは『もったいないなあ』と感じて学び始めたのがきっかけです』。

母の影響:小宮山さんは、『祖母が七五三の着物を仕立ててくれた記憶がはっきりと残っています。結婚式のときには母が着物を揃えてくれましたが、自分で着られなくて、美容院に行きました(笑)。それは『もったいないなあ』と感じて学び始めたのがきっかけです』。

「『確信』に変わりました。(全国大会に)行けると思いましたが、しかし、そんな確信もやはり全国大会での緊張は半端なく、会場内、3600人という聴衆を前に発表を始めて『2、3分後ぐらいから、あまりよく覚えていないんです。机の色(茶色)だとか、喉が渇いたとかは覚えていたんですが、会場の様子は全く覚えていなかったですね』。

▼お地蔵さまのおかげ:通称「新屋辻(助生町

45周年記念事業のひとつ、「医学系留學生交流会」で十二単(じふにさん)の着物を披露。着せられ役のモデルを「お方様(おかたさま)」、着せる役の人を「衣紋者(えもんじき)」と呼び、二人で着付けるその姿が、その役目を小宮山さんが果たしました。

小宮山さんは「今回の十二単は『はじめみじ』と呼ばれる特別な時にしか披露しないもので、重さにして17kgほどになります。民族衣裳はこの国にでもあるものではないです。日本の衣裳は平安時代から1000年以上続く伝統があり、外国の方には日本人が思っている以上に、きものに對してあこがれをお持ちです。纏(まと)う、藝術、絵になる素晴らしいものなんです」。